

こころ

キリスト教を取り上げた新書や雑誌が話題になる中、キリスト教界の若手からメディアを用いた発信の在り方を模索する動きが活発化し始めた。

ネットやイベント駆使

9月29日、東京都台東区で「いのり☆フェスティバル2012」だ。キリスト教界の若手からメディアを用いた発信の在り方を模索する動きが活発化し始めた。司さん(35)。

「教会はハードルが高いけれど、イベントだったら行ける。そんな思いを持つ多くの人に、超教派の集まりが少ないキリスト教界での出会いの場、改革長老」に所属する。

発信模索するキリスト教界



聖書をテーマにしたトレーディングカードのゲームで、参加者と対戦する松谷信司「Ministry」編集長。トレカは今後発売の予定という。東京都台東区の「いのり☆フェスティバル2012」



鼎談に登場した波勢邦生さん(左)。他の登壇者とともに、オタク文化と宗教について語り合った。「いのり☆フェスティバル2012」

さらにキリスト教に関心のある全ての人々が一堂に会する場にした、との思いがある。

編集長を務める「Ministry」も教会向け雑誌とは思えないポップな体裁の雑誌で、特別企画では聖書を主題にしたトレーディングカードを作ったほど。ただ、特集はハード。深刻なのに、これまでほとんど語られなかった牧師のうづに切り込み、反響を呼んだ。今後は、教会における性的少数者や自殺の問題も取り上げたいという。

オタクと信仰

「いのり☆フェスティバル2012」で行われた鼎談「カミとポケと、時々、オタク」。評論家岡田斗司夫さん、曹洞宗僧侶吉村昇洋さんとともに、キリスト教の立場から登壇したのは波勢邦生さん(39)。

「インターネットを駆使した活動が特徴。質問サイトで「キリスト教プロテスタントの宣教師だ、何か質問ある？」と呼び掛け、教義からブライベイトまで千以上の問いに答え、同人誌にまとめた。ネットの生放送でキリスト教の講義も行う。



発行するフリーペーパー「れたすらん」を前に、今後の編集方針などを語る波勢邦生さん。北海道士別市の士別教会牧師。

フリーペーパー発行も

「れたすらん」(Ie t us run)。「地方の教会は厳しい。だが、一緒にやることで何かが見える。そんな思いで名付けた」神戸市出身。教会への支援に対する活動報告がきっかけで昨年2月に創刊。教派を問わず、全国から寄せられた紹介やニュースを掲載する。他の教会を知る機会がなかったが、これで分かった」などの好評を得た。

編集から広告集めまで基本的に1人。財政も苦しい。負担軽減のため冊子をやめ、ページを2つに絞らない形に変えた。教会の今の姿を伝え、つながりたい。より多くの人に声を届けたい。そんな思いを込めて活動を続けている。(共同通信編集委員・西出勇志、写真も)

月1回掲載

れたすらん

デジタル化して公共財とし、ネットワーク社会における教会の在り方を模索するのが目的。「社会に対する透明性を確保し、キリスト教の「リアル」がここへ来れば分かるようにしたい」